防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 127 号(2017. 10. 1)
事務局 川西地区自主防災会

海と川と池に囲まれた町 高松市木太町からのレポート

かがわ自主ぼう連絡協議会理事
高松市木太地区自主防災連合会会長
樫　　昭二

子どもたちと一緒に防災訓練

6 月 11 日、木太地区防災訓練が行われ、約 700 人が参加しました。今年は木太小学校の授業参観日に合わせての開催となり、大人と子どもが一緒に訓練をしました。東消防署職員や消防団木太分団の指導のもと、土のう作り、消火器や AED の取扱い、簡易担架搬送、バケツリレーなどの訓練を各班、各学年に別れて実施しました。

子どもたちは、地震体験車に乗り、東日本大震災や熊本地震の体験学習をしました。体育館では婦人会が中心に、ダンボールを使って間仕切りや簡易トイレを作成し、参加者から、災害時に役立つ内容だったとの評価もいただきました。

木太小学校児童を交えての訓練

婦人会を中心に避難所で使用する
簡易トイレつくり

詰田川であまから水まつり開催

8 月 6 日、第 23 回あまから水まつりが盛大に開催されました。

「あまから」の語源は諸説ありますが、詰田川が海に近く「甘い真水」と「辛い海水」が混じり合う汽水域であることだと思われます。

メインイベントの 1 つが「いかだ競争」です。町内各地区の代表や地元中学生らが、手作りのいかだで、川の上りと下りでタイムを競い合うもので、息を合わせ懸命にオー

ルを漕ぎ、白熱した勝負が繰り広げられました。今年は、大西市長も地元住民の一人としてレースに出場し、大きな声援を受けました。

木太小学校の運動場では「あまから踊り」が行われ、約 1,500 人が暑さを吹き飛ばす元気いっぱいの舞を披露しました。

その他、高商マーチングバンド、フラダンス、もちなげ、バザーなど楽しい催し物があり、木太町民の交流の輪が広がりました。

詰田川でのイカダ競走

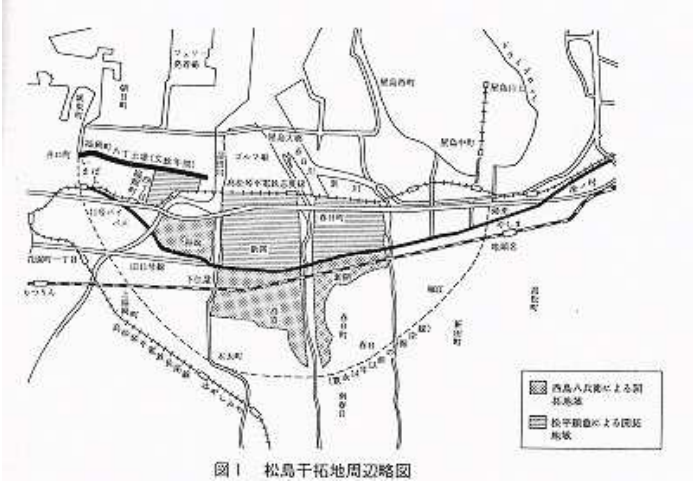
あまから踊り

高松市木太町　町の半分が海抜２ｍ未満の低い地域

木太町は市の中心市街地から東に位置し、沿岸部から高速道路の中央インターまでの南北に細長い町で、真ん中に詰田川が流れており、西に御坊川、東に春日川、新川があり、海と川に囲まれた町です。さらに町の約半分（北部地域）が海抜２ｍ未満という非常に土地の低い地域でもあります。

コトデン長尾線の北側に長尾街道が並行して走っていますが、昔はこのあたりが海岸線であったといわれており、その証拠に宅地開発などで土を掘ると貝殻が出てきます。

江戸時代の中期に、西嶋八兵衛による干拓事業で、あばれ川と呼ばれていた川を詰めこんで治水したことにより、詰田川ができ、その後、松平頼重による干拓で現在の海岸まで農地が広がりました。しかし、北部地域は干拓で土地が低いため、元々災害には弱い地域なのです。



干拓地周辺図

木太町の南部は安全か？　大池の決壊で陸津波の恐れ

では、木太町の南部地域は安全なのでしょうか。

木太町の南端に大池（貯水量３６万トン）があり、地震が発生した場合、堤防の決壊で陸津波の発生の恐れがありますが、県の耐震診断では、耐震性ありの診断結果が報告されています。

高松市の南海トラフ巨大地震発生による大池の堤防決壊のシミュレーションでは、宮川を通じて木太南小学校付近まで池の水が氾濫すると予測され、南部地域のかなりの部分が陸津波に襲われることになります。

特に大池の下にある木太中学校は大きな被害を受け、生徒の避難誘導体制の確立が求められています。

大　池

のどかな農村地域が人口３万２０００人の市内最大の町に

昭和 30 年代までは、約 800 世帯の農家が米作りに励むのどかな農村地域でしたが、昭和 40 年代の高度経済成長期以降、市の中心市街地に隣接していることもあり、宅地開発が急速に進み、人口が急増しました。現在では 1 万 4 千世帯、約 3 万 2 千人の人口を擁する市内最大の町に発展してきました。

しかし、町の半分が土地の低い地域であるという地理的、歴史的条件の上に、急速に宅地開発が進められてきた中で、雨水排水対策が遅れている現状が防災対策の上で大きなネックとなっています。

平成 16 年の 16 号台風・23 号台風　高潮により北部地域が甚大な被害

平成 11 年、木太町内の自主防災組織が集まり、木太地区自主防災連合会が結成されました。風水害の警報が出た場合には、役員がコミュニティセンターに集まり、消防団木太分団と情報交換しながら町内の池や河川状況を点検し、災害に備える体制を整えてきました。

平成 16 年 8 月 30 日から 31 日にかけて襲ってきた台風 16 号が大潮の満潮時に重なったために高潮が発生し、詰田川の氾濫により、木太町の北部地域で床上浸水約 240 戸、床下浸水約 1,000 戸という大災害にみまわれました。3 日後には水田の稲が赤くなり、塩害の発生で農業被害も広がりました。幸い木太町南部地域は被害を免れたため、南部地域の自主防災組織が支援に入り、土砂の搬出や家具の片づけ、床下の消毒などを行いました。自治会や各種団体と連携し弁当や支援物資の配布も行いました。

10 月 20 日、台風 23 号により、木太町南部が被害を受け、木太南小学校に避難した人々に炊き出しも行いました。

2 つの台風による被害の状況から明らかになったのは、詰田川の周辺が一番被害が大きく、次いで、御坊川、春日川、詰田川の支流である宮川の順に被害が発生しており、土地の低い所が全部、水害にみまわれたということです。

その後、県による防潮堤の設置、逆流防止弁の設置、市の河川改修が順次実施されてきました。また現在は、詰田川の堤防の液状化による崩壊防止のための堤防改修工事が行われており、早期の完了が求められています。

高潮状況琴電沖松島駅

指定避難所 7 か所　津波発生時には 4 か所が使用不能

木太町では小学校 3 校・中学校 1 校の体育館と、コミュニティセンター3 か所の計 7 か所が災害時の指定避難所となっています。

しかし南海トラフの巨大地震が起き、津波が発生した場合には、海抜 2m未満の木太町の北部地域にある指定避難所 4 か所は使用できない状況にあります。

その内の 1 つであります木太コミュニティセンターは、耐震性が不足しているため、建て替えになり地盤を 1m嵩上げすることになりました。2 年後には完成の予定です。

人口規模に比べて指定避難所が少なすぎます。その上、津波発生時には 4 か所が使用不能な状況の中で、市の対応は「他の安全な場所に避難してください」というだけで、それ以外の対策は何もありません。こんな現状の中で、どうやって地域住民の命を守るのか。自主防災組織の果たす役割の大きさを改めて痛感する次第です。

災害に強い町づくり　防災意識の向上と防災力の強化を

木太地区で、平成 11 年に自主防災連合会の結成以来、毎年実施してきた防災訓練は、3 つの小学校を順番に回って、今年で 17 回目になりました。平成 16 年の 16 号台風の教訓をふまえ、訓練では必ず土のうを作って、町内の 3 か所に保管し、災害時に備えています。

平成 24 年に「高松市ゆめづくり推進事業」として「木太地区防災マップ」を作成し、全世帯に配布しました。マップには、災害時の避難場所、避難ルート、防災倉庫の表示だけでなく、高潮や津波の浸水予測図とあわせ海抜表示も記載しています。

地区内の危険個所の調査

「防災講演会」は、平成 24 年度に香川大学教授・長谷川修一先生を講師に学校で開催し、それ以降、毎年、木太コミュニティセンターで開催しています。

今年度は、「高松市自主防災組織育成事業」として、木太地区に 150 万円の補助金交付が決定しました。防災資機材の充実を図りたいと考えています。

みなさんと力を合わせて、災害に強い町づくりをめざし、住民の防災意識の向上と地域防災力の強化に力を尽くす決意です。

防災マップ作成のための地域調査

木太地区防災マップの作製

長谷川先生を招いての防災講演会

幼・保・小学校の避難訓練への協力

平成 29 年 9 月 9 日

第４回『お客様参加型、営業中防災訓練』の実施について

株式会社フジ フジグラン丸亀
店長　木谷 晃二

1. フジグラン丸亀の概要

創業 50 周年を迎えた弊社の、香川の核店舗「フジグラン丸亀」は、平成 11 年 7 月オープン、丸亀市川西町南の土器川沿い 67000 ㎡のショッピングセンターです。入店店舗は、株式会社フジ直営の食品・衣料に加え、ＤＣＭダイキ株式会社を核とし、くすりのレディ・ダイソー・ガスト・宮脇書店などの飲食・物販店舗に、百十四銀行・郵便局・ガソリンスタンドといった生活に密着した施設を加えた、計 39 の店舗があります。

また、フジグラン丸亀は川西地区自治会へ加入しており、自治会主催の各種イベント・秋まつりへの参加、協賛をしています。日々の営業の中では、廃棄物減量化・リサイクル対策としてのエコステーション設置～店頭リサイクル回収（食品トレイ、紙パック、アルミスチール缶、充電式電池）に取り組み、電気自動車の充電スペースも設け、生活拠点としての役割をしています。

2. 営業時間外での基礎訓練の実施

年４回の消防訓練～防災訓練を実施していますが、機器・器具の使用訓練においては、この営業中防災訓練の店舗開店前に実施しています。特に心肺蘇生～ＡＥＤの使用訓練においては、主要客層に高齢者が多い自店としては一番身近な訓練で、実際、心肺蘇生し、ＡＥＤを作動させるまで至った経験者も居る程のため、何度訓練しても良いと感じています。これらは地震・火事だけの事ではないため、一生懸命取り組みました。これらの訓練は、川西地区自主防災会の方々にご協力頂き実施しています。

営業時間外での訓練（消火器訓練）

営業時間外での訓練（心肺蘇生）

営業時間外での訓練（応急手当）

営業時間外での訓練（毛布担架）

3. 営業中における防災訓練の狙い

今年で４回目となる、『営業中におけるお客様参加型防災訓練』。年間で別途３回、開店前に従業員の防災訓練を実施しており、訓練に慣れているが、今回は、更に緊張感を出す為、『現場中心でリーダーがシッカリ指示を出す』『館内放送でハッキリと現状を伝えること』を主に課題として臨んだ。実際の災害時には、誰かがリーダーシップをとり、メンバーと一緒に取り組んでいくことが必要な為、５Ｗ１Ｈに沿り、作業時の掛け声はどうするかなどを主に事前打合わせした。また、備品については、ゼッケン・ヘルメット・懐中電灯・メガホンなどを使い、各自の役割を明確にすることから、班長⇒メンバー⇒お客様へ指示誘導に努めた。お客様も熊本地震・昨日の秋田での地震があった分、真剣に参加いただきました。

今回も、川西地区自主防災会の力添えをいただいての訓練となったが、『共助の精神、地域・お客様・企業の連携』によって、防災訓練が出来ました。

4. 営業中における防災訓練の内容

震度６強の地震発生からの一斉シェイクアウトの呼びかけに始まる。ショッピングセンターにおいては「買い物カゴ」が頭を守る道具として身近にあるもの。約 60 秒の安全行動～館内を暗くして実施した。従業員も同様の姿勢をとった後、電気ガス施設の確認、避難路の確保の行動。館内放送に並行して、お客様を広い通路から店舗外への避難誘導と次の地震に備える行動を実施。

地震でのケガ人を１名、火災でのケガ人を１名に設定し、実際に成人男性を担架で救出した。

地震後に、パン屋のオーブンから出火。5 名の消火器隊と 6 名の消火栓隊に分け模擬消火を行う。鎮火に成功の設定から残留者が居ないことを確認し全員退避した。

避難場所へ集合後、各班長から今回の訓練組織の隊長である私に全員退避の報告を受ける。

5. 訓練終了後のお客様の反応など

店舗の課題「臨場感の演出・従業員の声」が、良く出来た。お客様が混乱することなく、行動誘導がシッカリ出来た。第一行動のシェイクアウトを直前で６０秒と長くしたが、シッカリ現場は対応でき、避難行動までスムーズに進んだ。

従業員の模擬行動の声出しも出来ていた分、お客様に『ショッピングセンターでの防災・避難』が理解いただけたと思います。

真剣に取り組んでいるお客様も多数おり、従業員の士気も高まった。

実施２週間前から、店頭掲示・ホームページ・スマホアプリ・館内放送・チラシ広告で実施の案内をしました。近隣の城辰保育所の皆様にも参加いただきましたが、当日の飛び込みでの参加者もいらっしゃいました。

計１２０名での訓練となりました。

↑玄関での　告知看板

6. 訓練終了後の振り返り

昨年の課題だった、館内放送での臨場感の演出について

・今回は、「緊急地震速報」～「地震の音」を館内放送機器に録音し、音量を上げて実施しました。
ＢＧＭ機器の為、店内の場所によって聞こえ方に差がありましたが、事前のリハーサル時に確認しておいた分、シッカリお客様に緊張感が伝わりました。
火災時の非常ベルは、実際に非常設備を作動させるため、館内だけでなく、防災センターでも鳴ります。防災センターからの実際の 119 番通報や肉声放送もある為、防災センターでの動きも課題でしたが、大きな声でハッキリゆっくりと指示し、分かり易く発信出来ました。

・火災現場は、パトランプの演出で、消火班に分かり易く取り組めました。

・店内照明は、前回以上に落としました。訓練内で発生するケガ人や火災の場所を中心に、ほぼ真っ暗にし、臨場感が出ました。営業中の訓練で、お買物を急がれているお客様もいらっしゃいましたが、有事の際の訓練ということでのご理解をいただけたと思います。

・避難誘導員には、誘導の旗を渡していたが、誘導灯やレジ設置の懐中電灯も併用して実施した。
臨場感が上がることで、訓練への取り組む姿勢も変わってくると感じました。

もっと沢山の方に、参加していただく為に

・今回は、救急(99)に引っ掛けて、９月９日の実施としたが、北朝鮮の建国記念日だったりし、昨年より参加者が少なかった。次回は其の辺りも考慮し計画していく。

・ディベロッパーである弊社従業員での実施だったが、館内のテナント店舗の従業員にももっと参加いただき、本来のこの訓練の意味「有事の際の行動」を指導していかなければらないと思います。

次への課題

・従業員、テナント従業員の参加数を増やすために、早くから発信し計画していくこと。

・振り返りの為に、カメラだけでなく、ムービーを撮っておく必要があると感じた。

・お客様役の実際のお客様が増えれば増えるほど、避難誘導が大変になると感じた。
店内だけの誘導では足らず、店舗外の避難所までの導線において、人員の配置が必要に思いました。

事務局だより

平成29年　10月

今月は、防災担当大臣表彰受賞とシェイク・アウト後のプラスワン訓練等についてお知らせします。

１．防災担当大臣表彰を受賞

日ごろから防災に関し、防災思想の普及又は防災体制の整備に尽力し、顕著な功績のあった個人又は団体を、防災担当大臣が表彰することとしており、本年度「かがわ自主ぼう連絡協議会」が選ばれ、9 月 12 日（火）東京において表彰式がとり行なわれ、皆様を代表して出席させていただきました。

平成 19 年 3 月に発足以来、県内各地を回って訓練や研修、更には講演会を行なう事 500 回を超えると共に毎月発行の「防災・減災の輪」による活動が認められたものと思っております。

この賞を励みに尚一層の県内の地域防災力の強化と広域連携の輪を大きくしていきたいと念じております。

内閣府副大臣と談笑

２．シェイク・アウト後のプラスワン訓練の実施にむけて

11 月 1 日（火）10:00～　県下一斉に行なわれる「シェイク・アウト」訓練を終えた後に行なうプラスワン訓練の普及促進を図るため、県危機管理課と共に県内の福祉施設を回っておりますが、そこで気がついた点を整理してみました。

- 訓練については、義務づけもあって、消防機関と連携して、年間 2 回は行なっている。
- 備蓄食料については、1～3 日間位、用意している施設と今一歩といった施設に分類できた。
- 調理する燃料は LP ガスと電気、非常用としてマキを用意しているのは 1 カ所のみの状況。
- 地域との連携状況、2～3 カ所の施設は双方向でうまくいっているが、他の施設はボールを投げても反応が今一歩という状況が多かった。
- 生活用水確保については、どの施設も感心がうすいように思えた。

３．大型発電機（25KVA）によってコイン式精米機を稼働

かねてより計画しておりました、商用電源断が長期間続く場合の代替電源によるコイン式精米機の試験運転が、9 月 30 日（土）10：00 から丸亀市川西地区自主防災会によって実施され、順調に「備蓄米」60kg の玄米を精米しました。

大震災時の対応に確認がとれ、安心して炊きだしが行なえることを立証できました。

編集後記

今月の防災減災の輪は、かがわ自主ぼう連絡協議会理事　高松市木太地区自主防災連合会会長　樫　昭二様、株式会社フジ フジグラン丸亀　店長　木谷 晃二様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。